

2025年3月期 決算説明会資料



株式会社アドバネクス

2025年5月21日

本資料は2025年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 2026年3月期 連結業績予想
 - 2-1. 業績予想の背景
3. 中期経営計画
 - 3-1. 進捗状況
 - 3-2. 注力市場
 - 3-3. 構造改革
4. トピックス、まとめ

1. 2025年3月期連結業績概要

(単位：百万円)

	2024/3期	2025/3期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	26,549	28,532	+1,983	+7.5%
営業利益	365	1,109	+743	+203.1%
営業利益率	1.4%	3.9%	-	-
経常利益	832	170	△662	△79.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	268	△628	△897	-

- 売上高は、自動車向けが中国メーカーの台頭や認証不正問題の影響で伸び悩んだものの、OA向けが好調に推移し、また、特に米州の医療ビジネスが急拡大したことから前期比増収。

- 営業利益は、人件費やエネルギーコストの高騰もあったが、特に米州の医療ビジネス拡大が収益をけん引し前期比増益。

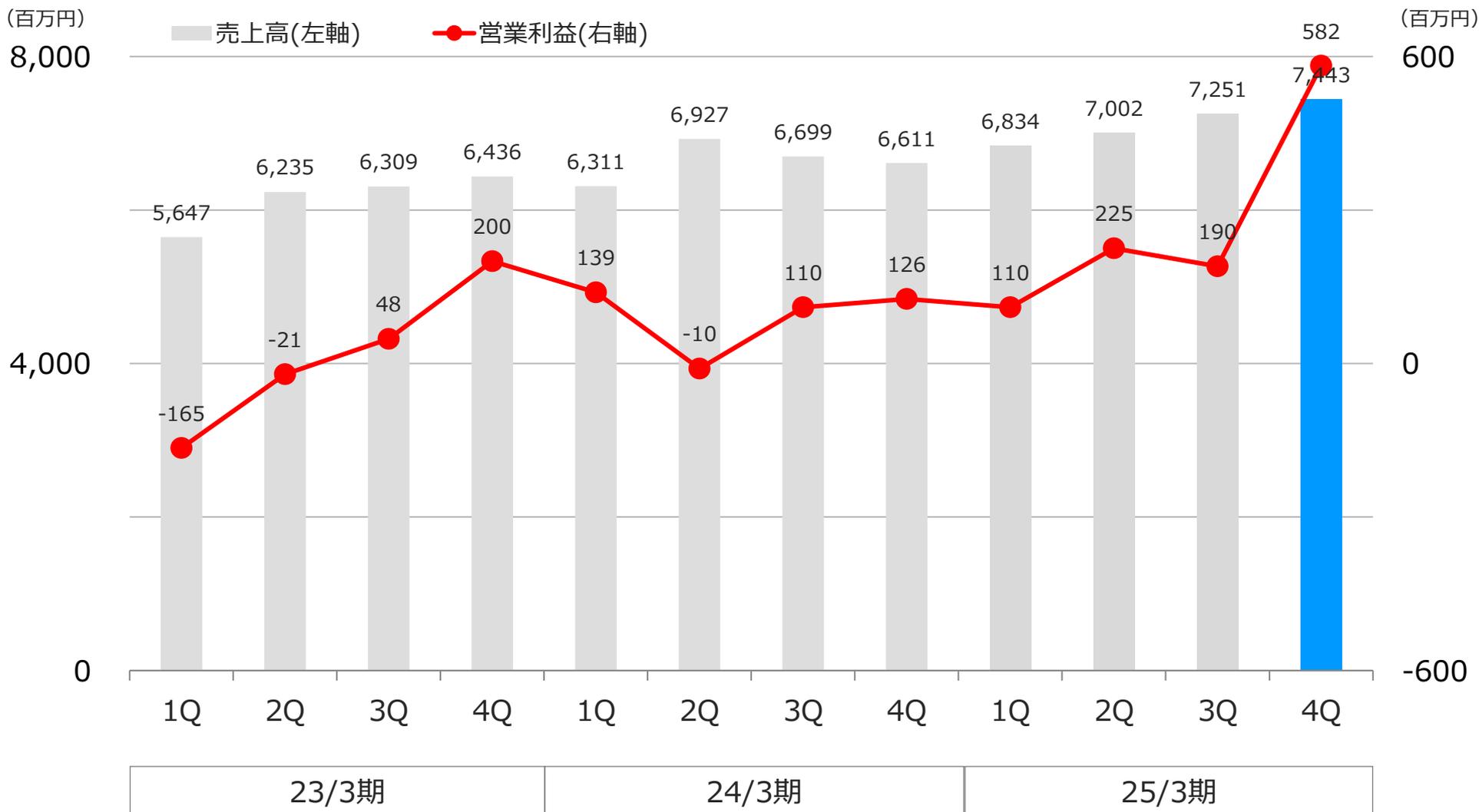
- 本業（営業利益まで）が改善した一方、経常利益は為替の変動（主に米ドル⇔メキシコペソ）に伴う保有資産・負債の評価替えにより、為替**差損761**百万円（前年同期は**差益664**百万円）が計上され前期比減益。

- 当期純利益は、シンガポール工場閉鎖に伴う特別退職金（371百万円）と、マレリ株式会社との訴訟に関する訴訟損失引当金繰入額（100百万円）を特別損失に計上し損失に。

24年3月期レート： 1 US\$ = 144.4円

25年3月期レート： 1 US\$ = 152.5円 2024年3月-2025年3月毎月月末TTMLレートの平均

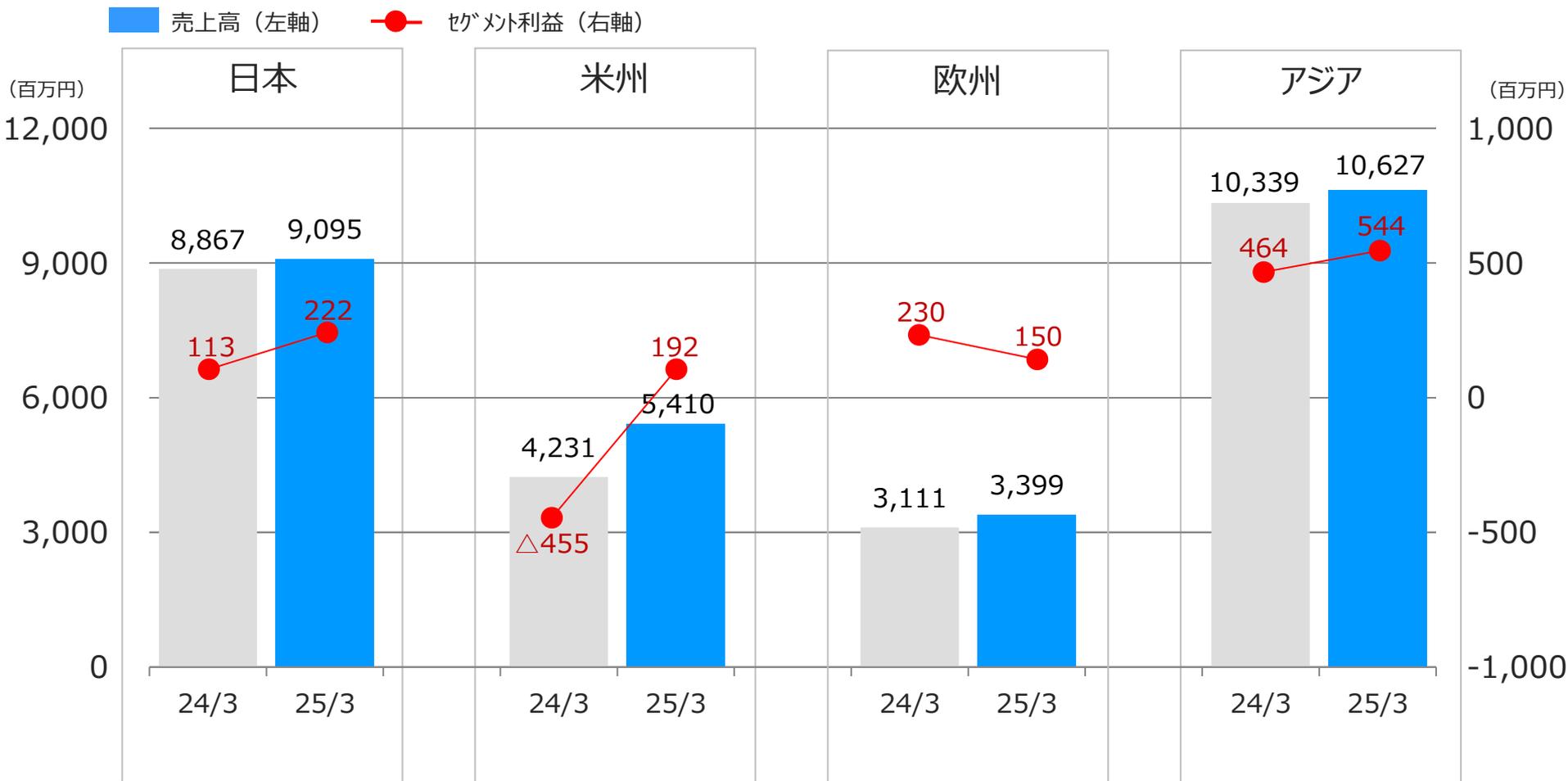
1. 連結売上高・営業利益推移



24年3月期レート： 1 US\$ = 144.4円

25年3月期レート： 1 US\$ = 152.5円 2024年3月-2025年3月毎月月末TTMLレートの平均

1. 所在地別売上高・セグメント利益



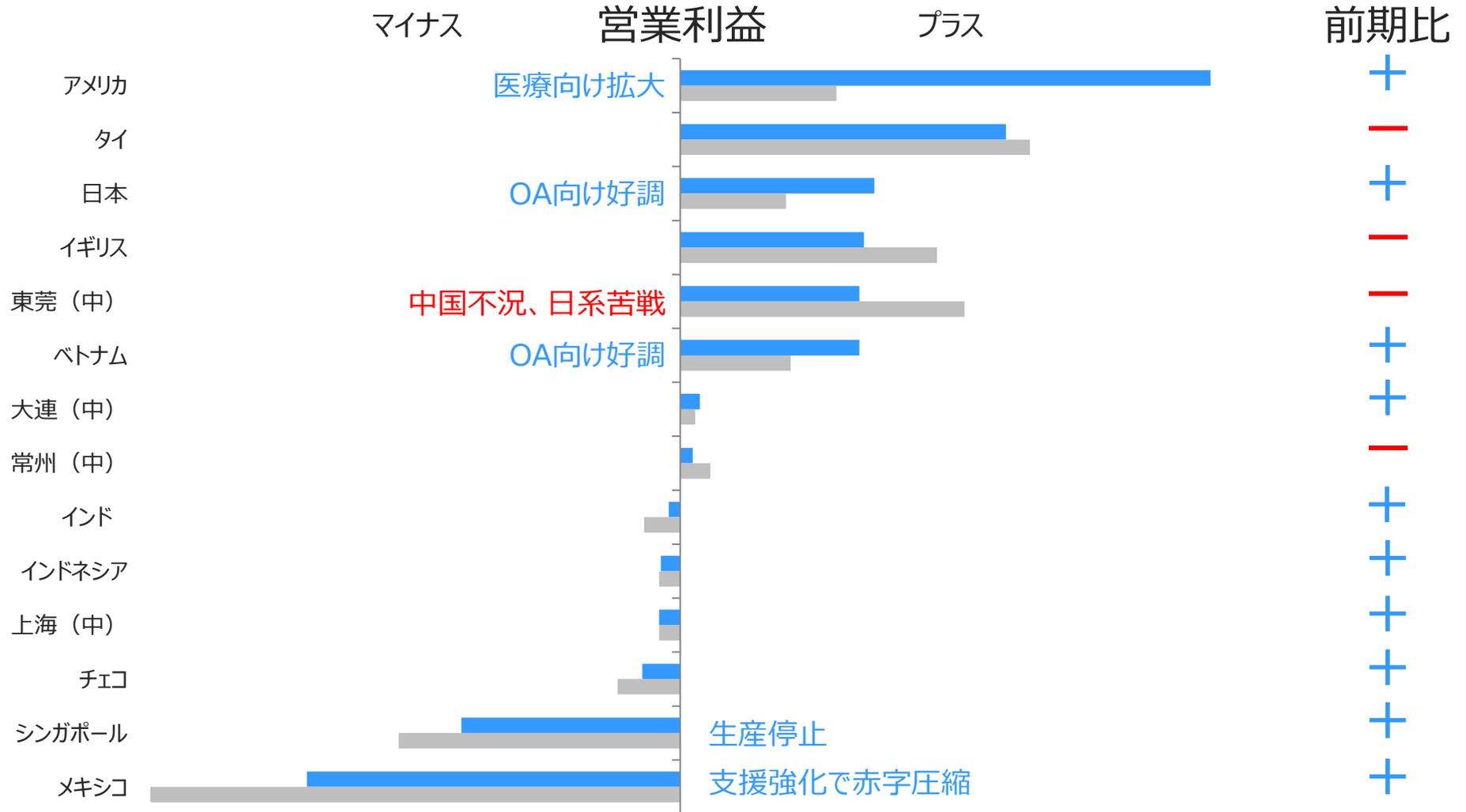
- + OA向け売上増加
- 人件費高騰
- エネルギーコスト高騰

- + 医療向け売上増加
- + メキシコ工場赤字圧縮
- エネルギーコスト高騰
- 人件費高騰

- + 医療向け売上増加
- エネルギーコスト高騰
- 人件費高騰

- + OA向け売上増加
- エネルギーコスト高騰
- 人件費高騰

■ 25/3期
■ 24/3期

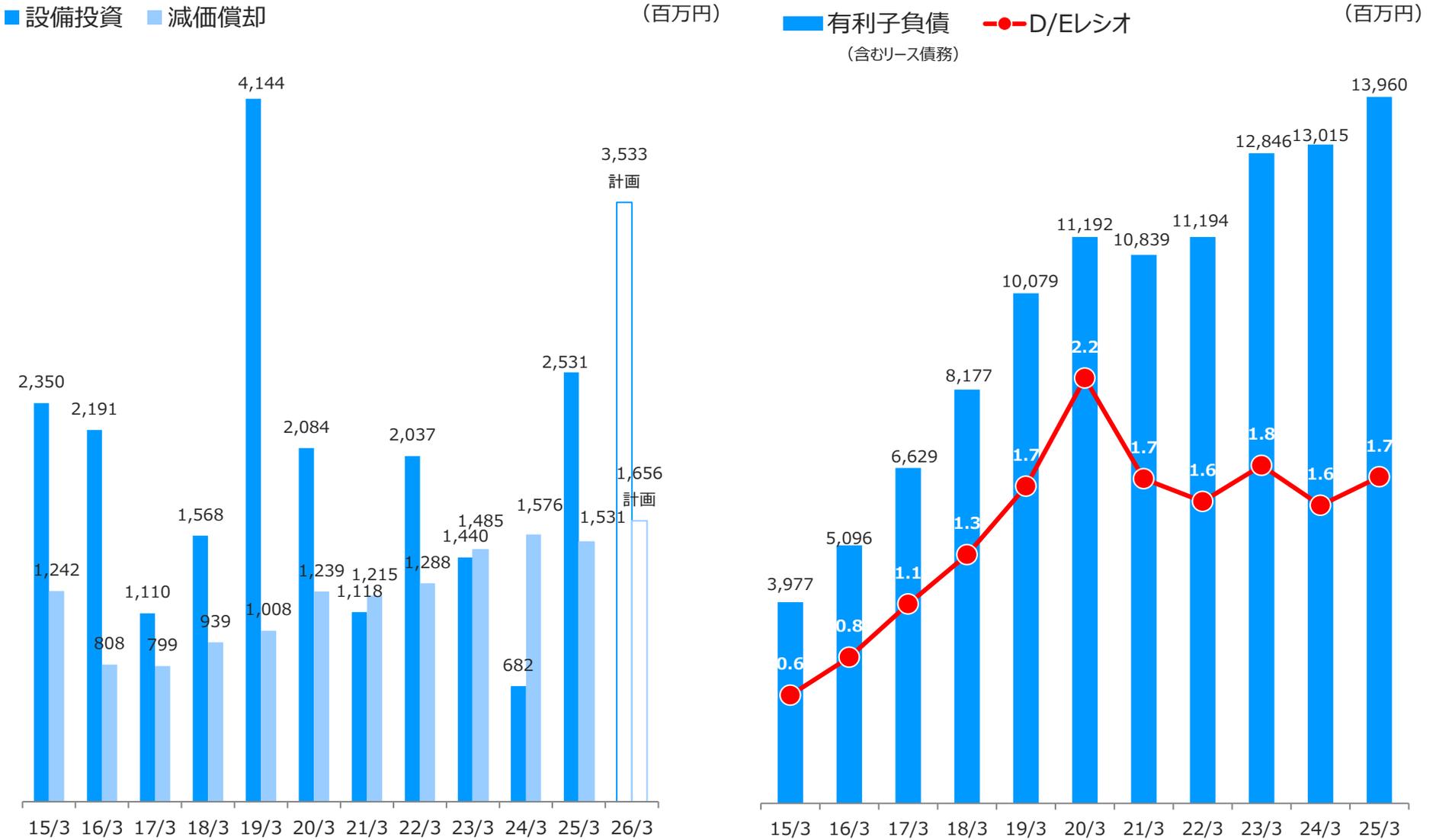


1. 連結売上高内訳

(百万円)

(市場別)	24/3期	構成比	25/3期	構成比	増減額	増減率
自動車(輸送機器)	14,599	55.0%	14,463	50.7%	△136	△0.9%
医療機器	4,131	15.6%	5,365	18.8%	1,234	29.9%
OA機器	2,330	8.8%	2,840	10.0%	510	21.9%
航空機器	1,682	6.3%	1,743	6.1%	61	3.6%
精密機器	799	3.0%	927	3.0%	128	16.0%
インフラ・住設	691	2.6%	690	2.4%	△1	△0.1%
AV・家電	552	2.1%	560	2.0%	8	1.4%
情報通信機器	378	1.4%	444	1.6%	66	17.5%
その他	1,387	5.2%	1,500	5.3%	113	8.1%
合計	26,549	100.0%	28,532	100.0%	1,983	7.5%
 (規格品)						
コイルスレッド	1,954	7.4%	1,921	6.7%	△33	△1.7%

1. 設備投資・減価償却・有利子負債



1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 2026年3月期 連結業績予想
 - 2-1. 業績予想の背景
3. 中期経営計画
 - 3-1. 進捗状況
 - 3-2. 注力市場
 - 3-3. 構造改革
4. トピックス、まとめ

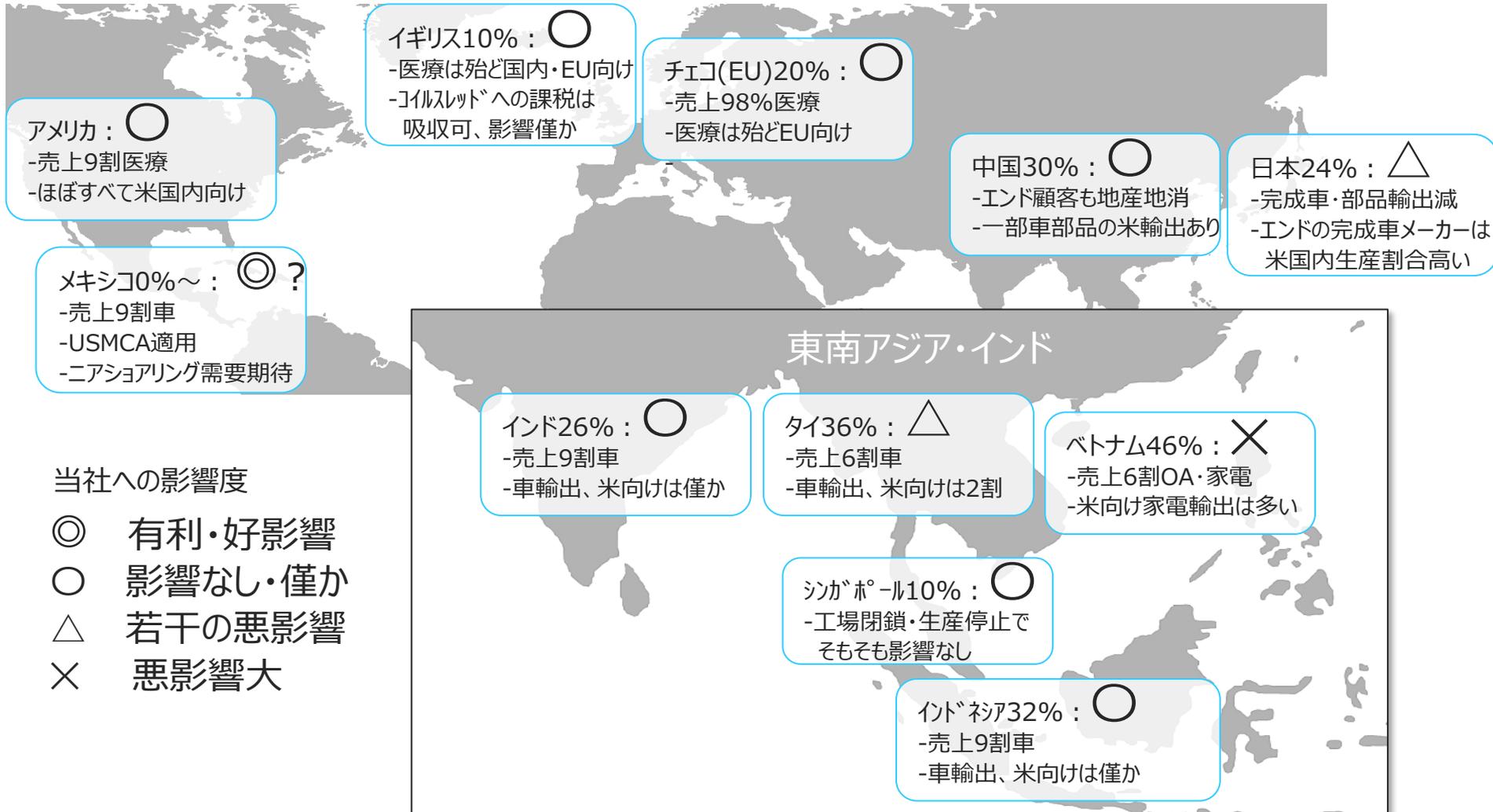
2. 2026年3月期通期業績予想

(百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	前期比増減額	前期比増減率
売上高	28,532	28,000	△532	△1.9%
営業利益	1,109	500	△609	△54.9%
営業利益率	3.9%	1.8%	-	-
経常利益	170	250	+80	47.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△628	50	+678	-
				(円)
一株あたり 配当	20	20	±0	-

2-1. 業績予想の背景：米国関税の影響

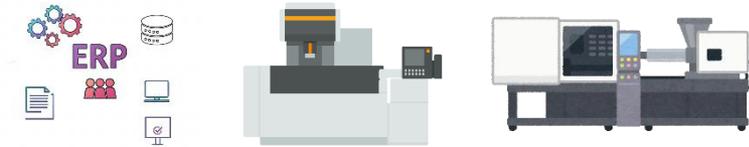
当社はほぼ地産地消なので直接的な影響は少ないがエンドユーザーへの影響が懸念される



2-1. 業績予想の背景：保守的に見る要因

高止まりするインフレ、為替変動、地政学リスクなど一般的な不安要素に加え、

グループ全体



飛躍に向けた投資による費用の増加

- IT基盤、ITオペレーションの整備
- 新ビジネスへの挑戦
- 金型製造能力の強化

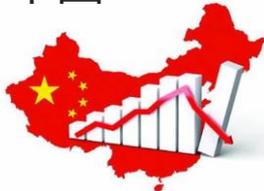
シンガポール



工場売却に時間を要している

- 生産活動停止後も固定費負担継続
- 上期中の決着を目指す

中国



中国経済の影響

- 米中問題の動向
- 日系自動車メーカーの苦戦
- 環境規制の強化

タイ



25年4月稼働開始の
新タイ工場

新工場の開設

- 償却費の増加
- 本格稼働までのロス
 - 4M申請*（サンプル提出、顧客評価待ち）
 - その他、慣れない環境で起こるロス

* 4M申請とは4M(Man:人、Machine:機械、Method:方法、Material:材料) のいずれかを変更する際、顧客に事前申請すること。一般的には4M変更品の製品サンプルを顧客に提出し、顧客がそれを評価・判断した上でようやく量産品納入が許される。なお評価期間は1日～数か月と長い場合もある

1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 2026年3月期 連結業績予想
 - 2-1. 業績予想の背景
3. 中期経営計画
 - 3-1. 進捗状況
 - 3-2. 注力市場
 - 3-3. 構造改革
4. トピックス、まとめ

21/4期-24/3期
Phase124/4期-27/3期
中期経営計画 Phase227/4期-
Phase3

本格的に飛躍

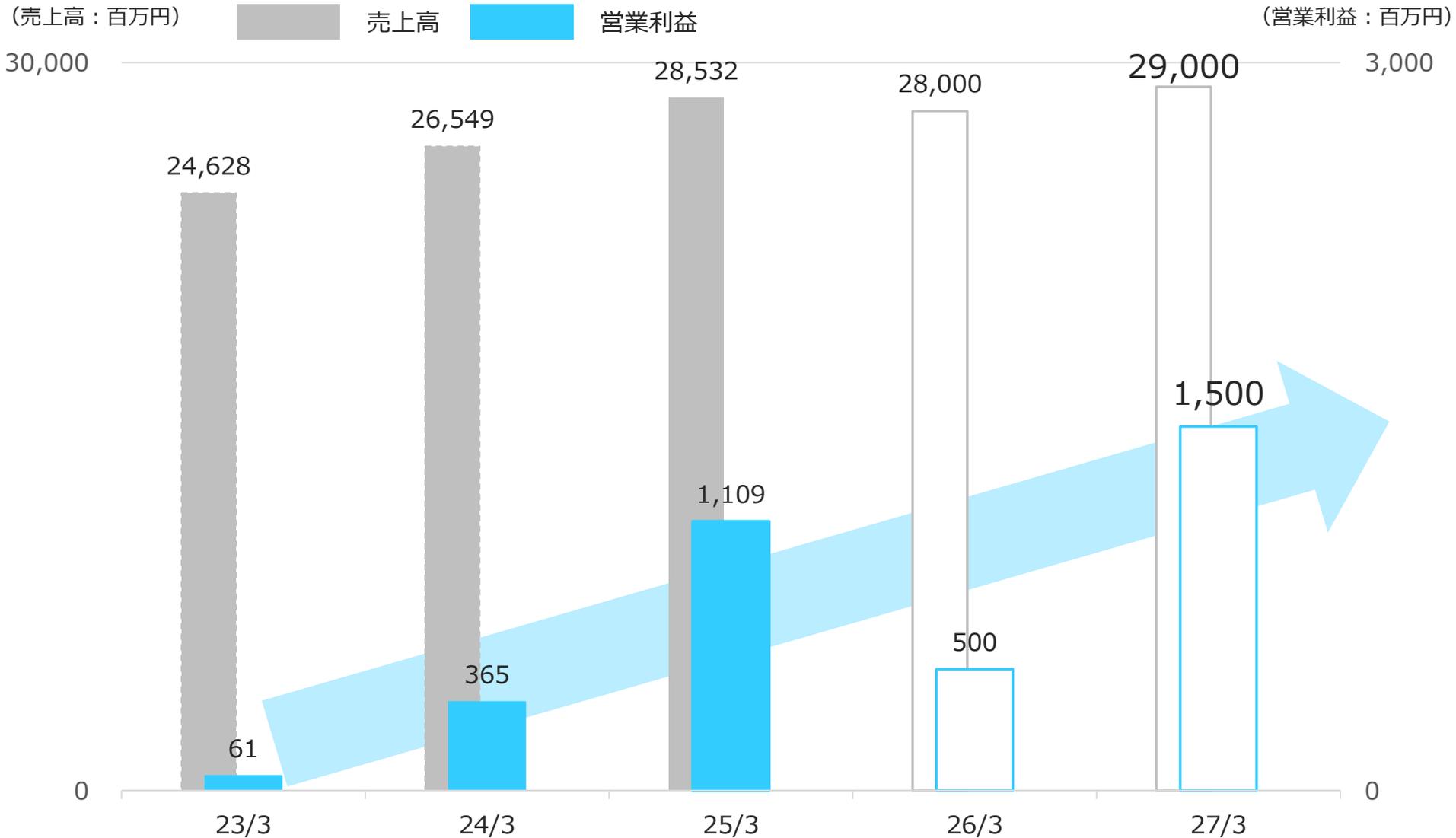
飛躍に向けて手を打つ

- グローバル連携・団結の強化
- 注力市場への経営資源投下
- 構造改革の実行

2027/3期

売上高	29,000
医療売上	6,000
コイルスレッド売上	3,000
営業利益	1,500
有利子負債	9,000以下
自己資本比率	30%以上
ROE	7.0%以上
配当（1株あたり）	50円

3-1. 進捗状況

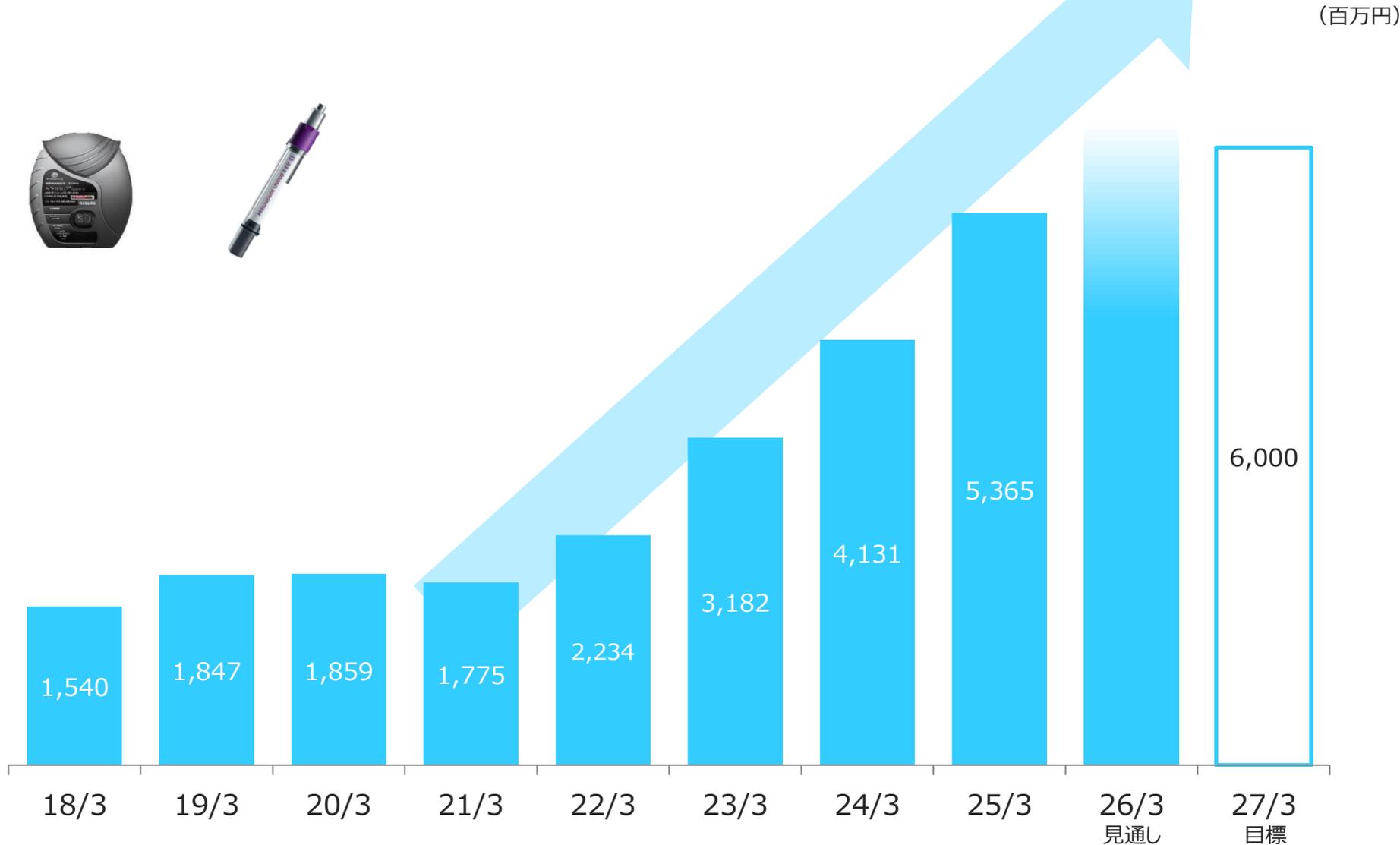


3-1. 進捗状況：重点テーマ進捗評価

医療好調、コイルスレッドは一時的に足踏み、シンガポール工場売却は遅れるもメキシコ工場は前倒しで進捗

中期経営計画 重点テーマ	27/3期 目標	24/3期 実績	25/3期 実績	進捗 評価	コメント
医療拡大	売上 60億円	41億円	53億円	◎	オートインジェクションの拡大で、 1年早い目標達成を 目指す
コイルスレッド [®] 拡大	売上 30億円	19億円	19億円	△	サプライチェーン問題等で 航空機関連伸びず
シンガポール子会社 ブレイクイブ	営業 ±0	△3.2億円	△2.5億円	△	工場売却遅れ
メキシコ子会社 ブレイクイブ	営業 ±0	△6.3億円	△4.3億円	◎	日本からの支援派遣が 奏功

3-2. 医療市場：売上目標



使い捨て医薬品デバイスの市場と新製品ラインナップの拡大でばね開発需要も増加



* ばねとデバイスのイメージは実物ではなく類似品のもの（顧客情報保護のため）

インジェクターや吸入器など使い捨てデバイスの有効性は明らか（通院や経口薬との比較）

カテゴリー

キーワード

内容

マクロ

- ✓患者・利用者数増
- ✓医療費負担
- ✓使用承認国増

- 地球温暖化による気管支疾病者の増
- 新興国の富裕化による糖尿病患者増
- 中間層拡大による高度医療受診者増
- 医療費増加による国家財政の圧迫、コスト削減ニーズ
- 各国で新薬の認証が進み使用承認国が増加

利便性

- ✓通院不要
- ✓投薬回数少
- ✓プライバシー保護

- 自分で投与可能
 - 通院する必要がない
 - 通院できない地域住民でも治療継続可能
- 週一回の投与など（経口薬より投与回数が少ない）
- 他の来院患者や医療従事者に知られない

効果

- ✓薬効
- ✓低リスク
- ✓治癒率

- 肺や血管に直接投与できる
 - 経口薬は消化酵素や胃酸で効果が減免
 - 経口薬は全身に作用し副作用のリスクが高い
- 医師の指示を遵守しやすく(アドヒアランス)治癒率が高い

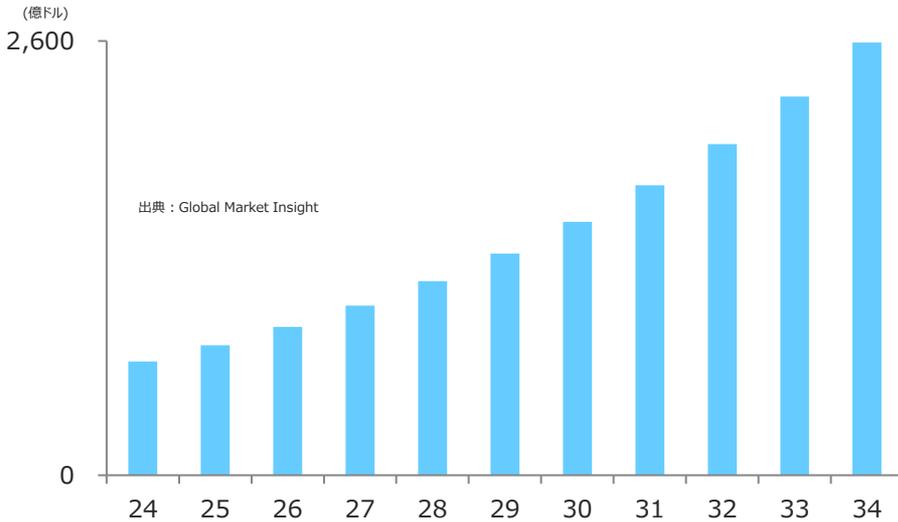
サプライヤー

- ✓ジェネリック増
- ✓新製品、バリエーション増
- ✓新規参入増

- ジェネリックの参入により低価格化
 - 低所得国への普及、利用者増加
- 新製品、機構設計の開発・登場
- デバイス設計・アッセンブリーメーカーの参入増加
 - 一方、ばねメーカーの増加は限定的

3-2. 医療市場：マーケット予測

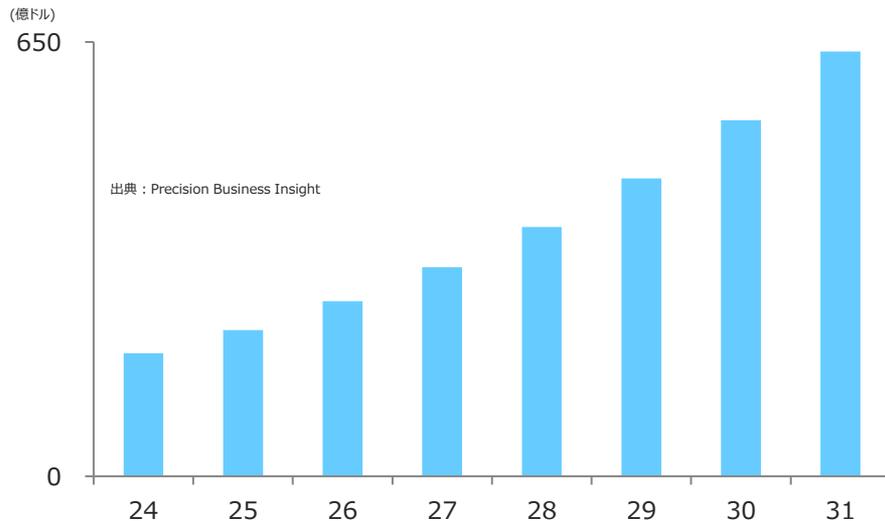
インジェクターと吸入器は、前述の背景により安定的に成長する見通し



インジェクター市場

年平均成長率(CAGR 2024-2034)

14.3%



吸入器(インハイ-)市場

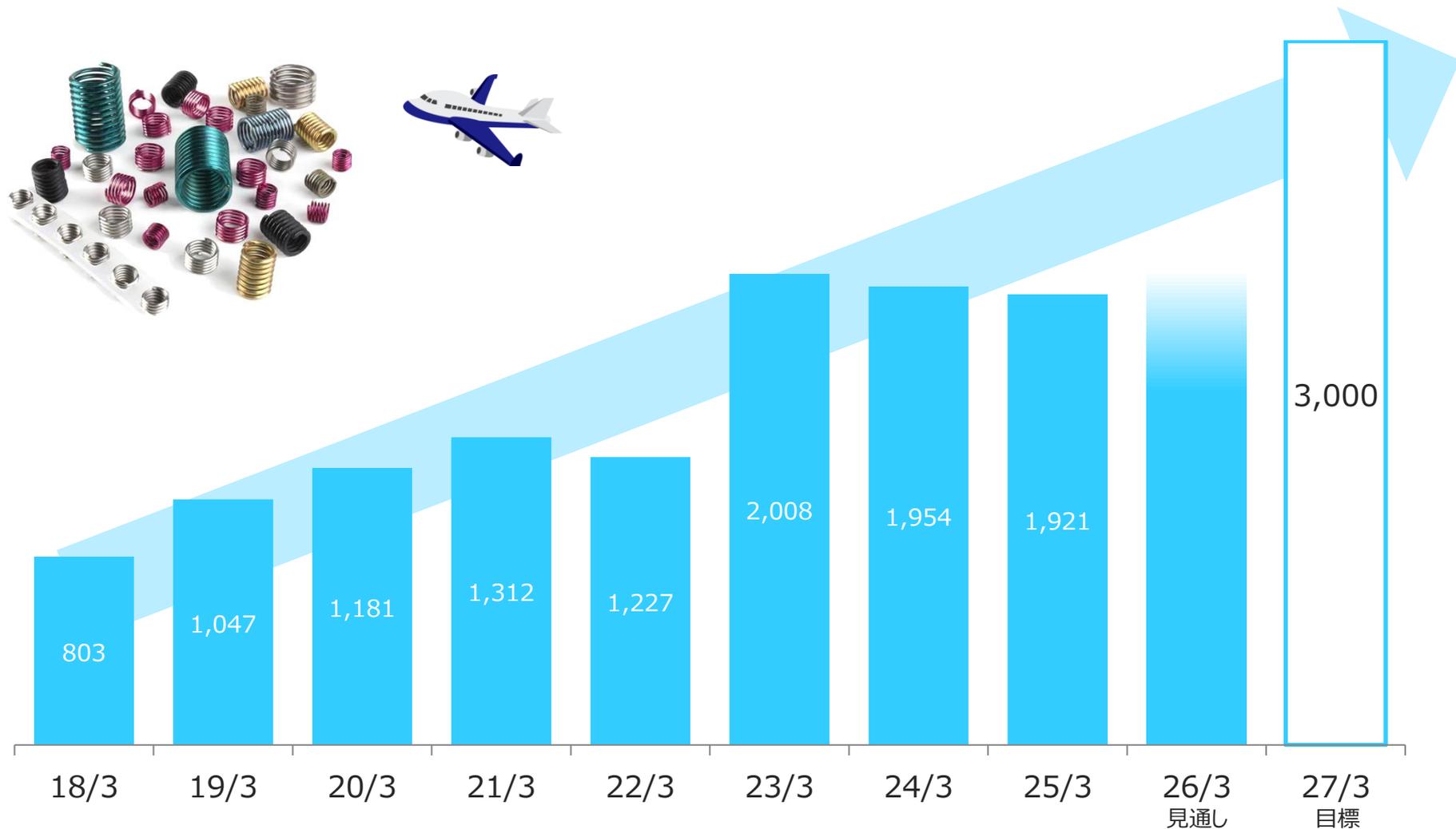
年平均成長率(CAGR 2024-2031)

19.4%



3-2. 航空機市場（コイルスレッド）：売上目標

(百万円)

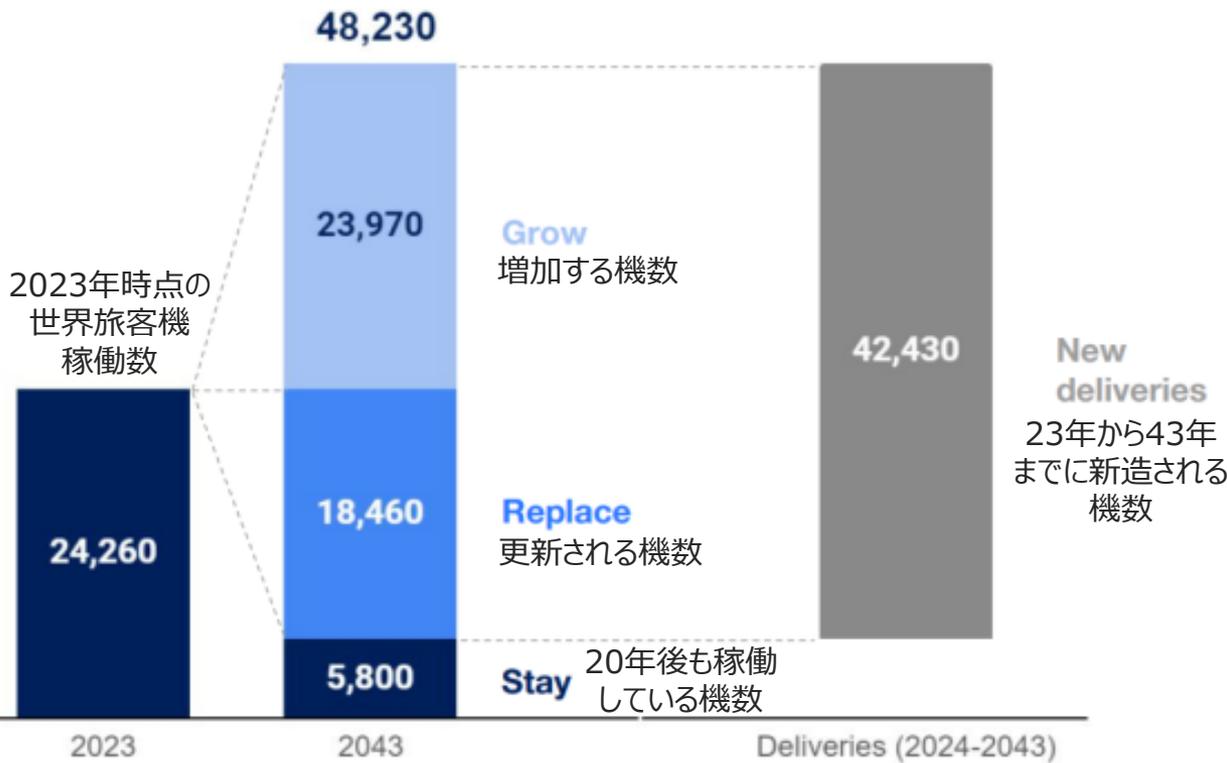


3-2. 航空機市場（コイルスレト）：市場状況

主要メーカーのトラブルとサプライチェーン問題で伸び悩むが、航空機自体の実需は旺盛。
長期的には安定的に成長する

航空機市場は長期的には拡大する

一方、直近はサプライチェーン問題で
需要はあっても造れず



Airbus社資料から抜粋

ボーイングとエアバスの納入遅れ改善されず = IATA事務局長

ロイター編集

2024年10月17日 午前 10:22 GMT+9・7ヶ月前更新



国際航空運送協会（IATA）のウィリー・ウォルシュ事務局長は16日、ダブリンで開かれた会合で、欧州の航空機大手エアバスと米同業ボーイングの航空機納入が遅れている問題について「極めていら立たしい」と指摘した上、依然として改善されていないと批判した。6月25日、ワシントン州レントンで撮影（2024年 代表撮影）

[ダブリン 16日ロイター]-国際航空運送協会（IATA）のウィリー・ウォルシュ事務局長は16日、ダブリンで開かれた会合で、欧州の航空機大手エアバス（AIR.PA）と米同業ボーイング（BA.N）の航空機納入が遅れている問題について「極めていら立たしい」と指摘した上、依然として改善されていないと批判した。

欧州では多くの航空会社が、納入遅れの結果として輸送力が抑制されていると訴えている。アイルランドの格安航空大手ライオンエア（RYA）は、納入遅れのため来年の旅客輸送見通しを下方修正しなければならなくなることを表明した。

ウォルシュ氏は、納入遅れの問題は「航空会社の経営者にとって極めていら立たしく、大きな影響を及ぼしている」と指摘。「向こう数年にわたって問題になると思う。航空会社の経営者から伝えられたメッセージは『状況は悪化しているわけではなく、底打ちして横ばいとなっているが、依然として改善はされていない』という内容だ」と述べた。

ライター記事を抜粋

3-3. 構造改革：メキシコ工場改善

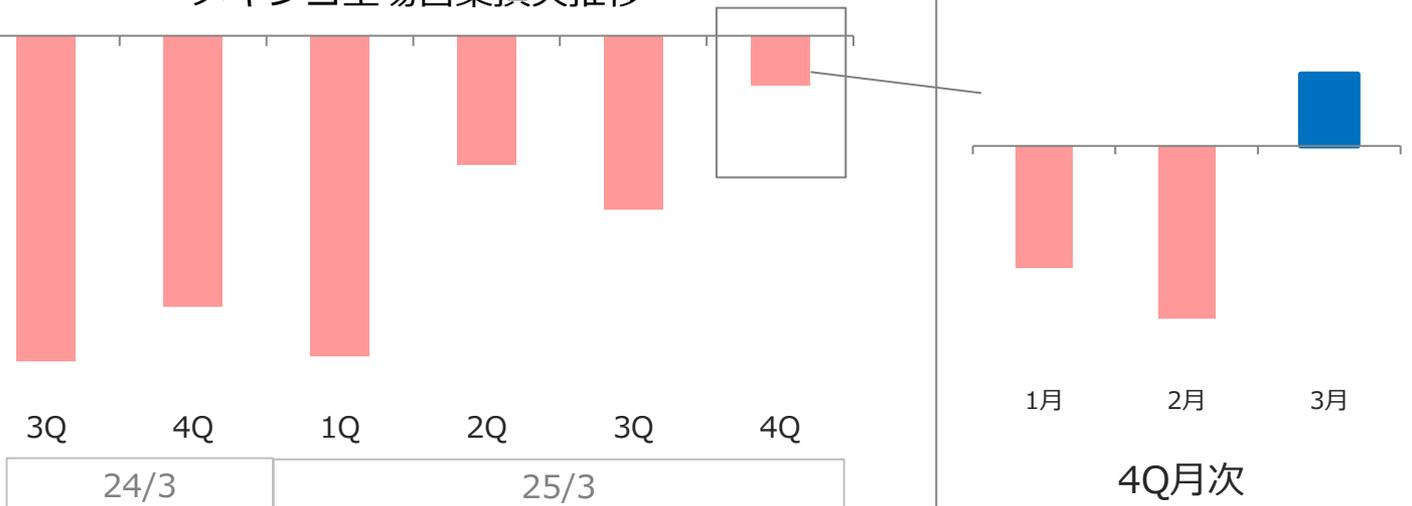
単月での営業黒字を達成（計画より1年前倒し）。工場基盤がほぼ固まったので売上拡大にシフトチェンジ



メキシコ工場収益改善取り組み

	1 Q		4 Q
人員数	230人	<ul style="list-style-type: none"> - 稼働率改善 - 不良率改善 - 人員数の適正化 - ムリ・ムダ・ムラ削減 - チームビルディング活動 - 加工スピードアップ - モラル・ロイヤルティ向上 etc. 	165人
限界利益率	42.2%		55.4%
売上総利益率	▲15.9%		13.5%

メキシコ工場営業損失推移



25年3月単月黒字
メキシコ工場設立以来初

3-3. 構造改革：シンガポール工場閉鎖

生産は終了。工場内の整備も概ね完了。
売却遅れにより維持費用負担残る。年度内には決着させる



旧製造フロア



旧オフィスフロア



シンガポール工場



空港から10分
マーライオンから10分

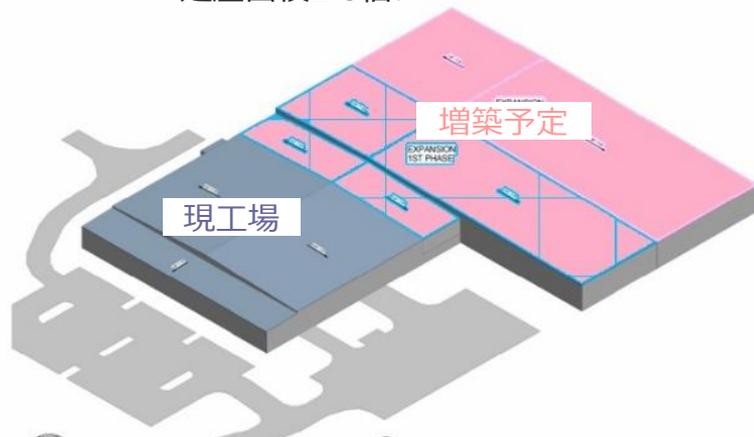
1. 2025年3月期 連結業績概要
2. 2026年3月期 連結業績予想
 - 2-1. 業績予想の背景
3. 中期経営計画
 - 3-1. 進捗状況
 - 3-2. 注力市場
 - 3-3. 構造改革
4. トピックス、まとめ

4. トピックス：アメリカ工場増築

25/3期売上・営業利益ともに子会社トップ、連結業績をけん引。需要倍増に備えて工場増築を前倒し



アメリカ工場（テネシー州）
建屋面積2.3倍に



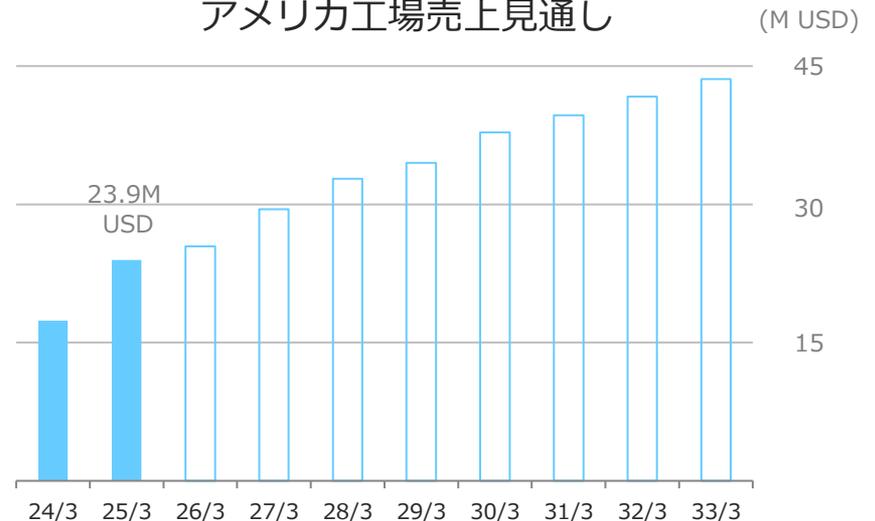
概況

- オートインジェクションが急拡大
- ばねサプライヤーの中でトップ評価、メガファーマのシェア確保
- 確度の高い長期フォーキャストを受領
- 増築部分は2026年6月稼働予定



アメリカ工場主力製品のオートインジェクション用ばね

アメリカ工場売上見通し



4. トピックス：タイ新工場竣工

新工場開設により工場キャパ拡大。EVやエアコンをはじめ新市場開拓を積極化



基本情報

- 土地 : 21,516㎡
- 建屋面積 : 9,938㎡ (旧工場の約4倍)
- 稼働開始 : 2025年4月
- 所在地 : タイ チョンブリー

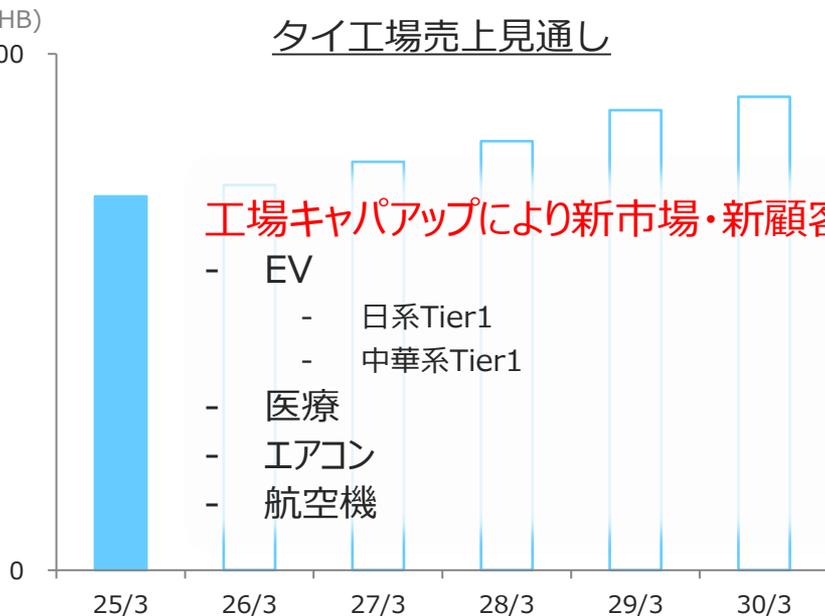
理由・目的

- 事業拡大
- 有利な立地
 - 近隣に顧客拠点が既に多く、今後も誘致プロジェクトにより更に増える
 - Toyota, BMW, BYD, 中華系EV
 - 免税等様々な優遇・恩典
 - 法人税・輸出入・投資・R&D etc.

タイ工場売上見通し

工場キャパアップにより新市場・新顧客を攻める

- EV
 - 日系Tier1
 - 中華系Tier1
- 医療
- エアコン
- 航空機



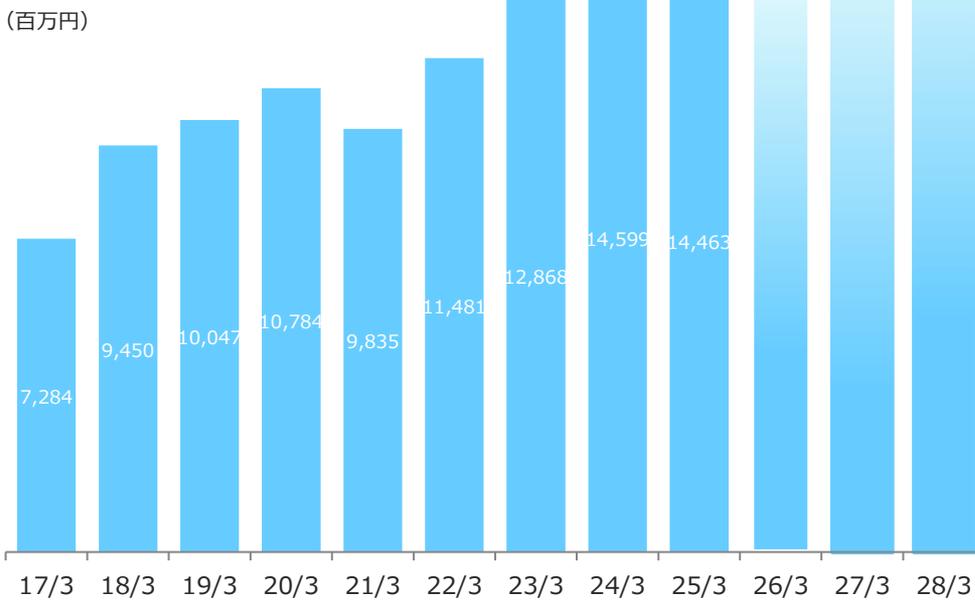
4. トピックス：EV関連拡大の兆し

自動車向けは足踏みが続いているが、27/3期頃からグループ各社でEV・HEV・PHEV向け本格化の兆し

自動車向け売上推移

EV関連部品受注拠点

コロナ・回復期 端境期 EV成長期



東莞・大連工場が先行している中、2027年以降は日本とタイでもEV向け製品が本格化する

* バスバーと非接触検査アンテナの製品画像はAIで生成 (顧客情報保護のため)

- 2025年3月期は為替差損・特損が大きかったが、営業利益は20年来最高と本業は好調
- 2026年3月期は米関税等リスクもあるが上ブレ・上方修正を狙う
- 中計重点テーマについて、
 - 医療向けは以前にも増して勢いづいてきた
 - コイルスレッドは足踏みだが航空機の実需自体は旺盛。新規販路の開拓・拡大で拍車をかける
 - 収益の足を引っ張っていたメキシコ工場がようやく黒字の目途
 - シンガポール工場の売却は遅れているが、年度内には決着させる
- 将来の事業拡大・成長に向けた投資を積極的に行っていく

ADVANCEX

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
経営企画室

TEL : 03 - 3822 - 5865

Email : tsutomu_kumaki@advanex.co.jp

URL : <https://www.advanex.co.jp>